

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地		
所在地	(〒213 -0032 ) 神奈川県川崎市高津区久地2-12-22		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	18名	ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域交流、近隣施設との交流に力を入れている。 温かい雰囲気の中で「利用者様も職員も、共に笑顔で過ごす」事を大切にしている。今年度は隣接したグループホームとの合同イベントを初めて開催し、地域交流の機会にもなった。今後も地域交流を活発に行っていく。</p> <p>・情報発信に力を入れている。 皆様の日々の様子や出来事、事業所の運営情報、利用者様の笑顔、職員の思い等を写真を交えて出来る限り分かりやすく、スタッフブログにて積極的に更新をしている。 これによりご家族様数名から感謝の言葉をいただいている。 引き続き情報発信に力を入れていく。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年12月18日	評価機関 評価決定日	令和6年1月3日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b> ◇地域との交流の再開 ・隣接の系列事業所と合同で、地域との交流を少しずつ再開している。ボランティアを受け入れ、感染症対策をして近隣の方や家族を招待し、敬老の日の花火大会、秋祭り、クリスマスコンサートを開催し、利用者を楽しませている。 ◇利用者の生活を豊かにするイベント ・月1回出前昼食を行い、利用者は寿司屋や蕎麦屋、レストランから好きなメニューを選び、楽しんでいる。 ・近くの梅林公園や久地円筒分水でのおやつレク、リモート運動会、腹話術やフラダンス等の行事を企画し、利用者の変化のある生活を過ごせるように支援している。</p> <p><b>【事業所の工夫している点】</b> ◇家族へのブログや「一言通信」で情報発信 ・事業所ではブログを月に数回発信し、利用者が笑顔で、生き生きと楽しく活動している様子を伝えている。また、毎月家族へ利用者の笑顔あふれる日常の生活を写真付きで「一言通信」として送り、家族からは楽しく過ごしている様子に感謝の言葉をもらっている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示をしている。日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所理念「笑顔でより楽しい毎日を」を玄関、事務室に掲示し、職員は申し送り時に唱和して、理念の実践に努めている。</li> <li>・利用者のやりたい事、食べたい物、行きたいところ等に耳を傾け支援している。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類相当から5類に変わり、少しずつ地域の方々との交流も再開している。12月16日には、ボランティアの方をお呼びしてクリスマスコンサートを開催した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接の系列事業所と合同レクリエーションを行い、花火大会、秋祭りには近隣住民や家族を招待している。またボランティアによるクリスマスコンサート、腹話術やフラダンスなど、地域との交流を再開している。避難訓練には地域の方の参加もある。</li> </ul>	・地域との交流が少しずつ再開されています。ボランティアを受け入れ、地域との交流がさらに活発に行われることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な近隣散歩時、地域の方々とのすれ違う事が多いのだが、まずは「挨拶」を必ず実践。そこから話を広げる努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの扱いが5類に変化後、2類時には書面の報告であったが、事業所での実施が復活した。ご家族様、地域の方皆様（町内会長、老人会会長、婦人部、地域包括支援センター職員）をお呼びして近況報告、情報交換をし、サービス向上に活かしている。	・運営推進会議は以前は書面で行っていたが、6月より事業所で2か月ごとに開催している。町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加で、近況報告、情報交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員や地域包括職員とは、介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。又、定期的（年2回）開催されている地域の見守り活動連絡会にも参加させていただき活動している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高津区役所の職員とは、介護保険や生活保護に関する事、業務上の相談・報告を行い、連携を図っている。</li> <li>・年2回地域みまもり活動連絡会に参加し、町内会長や区役所職員と意見交換をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討等を行う中で理解を深めている。	・身体拘束適正化検討委員会を年4回、身体拘束適正化のための研修を年2回行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・事例検討を行い、声掛けや車いすの操作等での意識づけを行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、話し合い、勉強会を行う他、勤務に入る前にも「虐待ゼロへの行動指針」を唱和して意識づけを行っている。	・「虐待ゼロへの行動指針」を事務室に掲示し、申し送り時に唱和し、3か月ごとに高齢者虐待チェックリストを使い、意識して防止に努めている。 ・虐待防止委員会研修を年4回行い、不適切なケアについて話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場や参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ十分な説明を行い、理解、納得していただいた上で契約をしている。 又、契約時以外でも随時質問を受付、安心して理解していただける様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では積極的に意見や要望を仰っていただけるように対応をしている。又、その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。	・家族からの意見は面会時や電話連絡時に聞いている。 ・職員がブログを月数回発信するほか、毎月「一言通信」を家族に送付し、利用者の様子を知らせ、家族から感謝の言葉をもたらしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談をする機会を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見ができる環境を作り、反映をさせている。	・管理者は年2回の個人面談や毎月のフロアー会議で職員から意見を聞いている。 ・職員は気が付いた点を連絡帳に書いて職員間で共有し、フロアー会議で話し合い、業務に取り入れている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事で、それぞれがやる気や向上心を持って働く事が出来る環境整備に努めている。	・管理者は年2回人事考課を行い、職員の頑張りの努力、勤務状況の評価し、一人ひとりがやりがいをもって働くことができるような環境整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。	・職員が初任者研修や実務者研修などを受講できるように資格取得支援制度がある。 ・職員は勤務しながら安心ヨガのインストラクター資格等の取得研修を受ける機会がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対応が長く続いたため、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。法人内同業隣接事業所と交流する機会はある、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話を聞いている。その他連絡時に積極的にコミュニケーションをとる中で、相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族様のお話を傾聴している。その他訪問時や電話連絡時、積極的にコミュニケーションを取る中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていただき、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他訪問時や電話連絡があった時に報告・連絡・相談を行い、共にご家族様を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中ででたワードを下に、話題提供、支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居前の面談や生活歴からなじみの場所や人間関係を把握し、話題の提供に繋げている。</li> <li>・各階の入口にポストを設置し、利用者が手紙を入れると職員が郵便で送るなど支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支え合いの関係を築けるよう、職員が都度橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや会話、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度カンファレンスを実施。又ご家族様の思いも聞き取りを行っている。思いに添えるようなケアの実現を目指している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の会話や関わりの中から思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、表現や仕草、家族からの話から判断している。</li> <li>・把握した思いや要望は連絡帳や申し送りノートに記録して職員間で共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時にご本人の出身地等、過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮する努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタル測定。食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握している。又、利用者様個々の生活状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成においては、ご本人、ご家族のご意向を反映させた上で、必要に応じて関係者（医師等）の意見も取り入れ、現状にそくした介護計画を作成している。	・介護計画は居室担当者が立案し、利用者、家族、医療関係者の意見を入れて作成している。 ・6か月ごとにモニタリングを行い、重度化等状況に応じてその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有のため、申し送りファイルや連絡帳を活用している。ケアがうまくいった時の方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度に、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類となり、少しずつ近隣の豊かな地域資源への訪問など、活動を再開している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応ができる支援体制である。外部通院をされる方へは主治医からの情報提供や通院へのサポートがある。	・入居時に利用者・家族の同意を得て、協力医を主治医としている。 ・月2回、内科・歯科の訪問診療があり、専門科の通院には家族が同行し、受診結果を共有している。 ・医療連携による24時間の支援体制が整っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携看護師連絡記録」が、介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談しあうツールとなっている。又、看護師訪問時は口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前にはご家族・主治医・施設関係者とでムンテラの間を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についての対応の説明を行っている。又、必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「重度化した場合の対応に係る指針」を入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。</li> <li>・必要が生じた段階で再度家族に説明して要望を聞き、医師・看護師等関係機関と協力して支援している。</li> <li>・看取り介護研修を実施している。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実施訓練を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含めて年2回、利用者参加で災害訓練を行っている。</li> <li>・消防署の指導で水消火器訓練を実施し、町内会長の参加を得て災害時の協力体制を確認している。</li> <li>・食料・飲料水を3日分備蓄し、事業継続計画にリスト化している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛けを行っている。 不定期にフロア会議内等で言葉かけ、接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にしたい対応をしている。	・プライバシー保護マニュアルを作成し、利用者の尊厳を尊重する支援を共有している。 ・接遇や言葉かけについて研修やフロア会議で話し合い、気になる言動には管理者が声掛けしている。 ・個人情報は施錠・保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やコミュニケーションの中からご本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がされるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしていただいている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。	・利用者の持てる力を生かし、テーブル拭き・後片付け・お盆拭きをできる範囲で行っている。 ・毎月出前昼食を実施し、利用者は好みの寿司や丼もの、麺類を選んで食事を楽しんでいる。おやつのおはぎや、あんみつ作りをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた自尊心を傷つけないお声掛け、トイレ誘導等排泄支援をしている。	・チェック表で排泄リズムを把握し、自らトイレに行くのを見守ったり定時で誘導している。 ・一人ひとりに合った声かけで排泄介助している。こまめなトイレ誘導により、リハパンから布パンツになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保。毎日の体操（運動）への参加。その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望や意向をお伺いし、それを配慮した上で入浴支援を行っている。  入浴日の固定、時間の固定、無理強いはいしない。	・入浴は基本週2回で、日にちや時間は利用者の要望に合わせている。 ・職員は介助しながら、利用者と一緒に歌を歌ったり昔話をしている。 ・1階にリフト浴設備がある。入浴しない場合は、体を拭いたり足浴、シャワー浴対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様のその時の状況を把握した上で、個々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し除圧する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬への理解を深めている。又、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの皆様の好みや性格、得意なことにあわせて役割や楽しみを支援している。（散歩、歌、作品作り、読書等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類となり、少しずつ戸外に出掛けられるような支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で難しかった外出を徐々に再開し、徒歩や車いすで近隣公園に散歩に行き、散策やおやつタイムを楽しんでいる。</li> <li>・週1回は外に出ることを目指し、近隣を一周して住宅の庭の草花を見たり、外気浴をしている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、手紙のポスト投函支援も行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振りかえられるようにしている。その他、季節に合わせた装飾や照明の調整、温度、湿度管理、清掃、換気を適宜実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングや廊下に利用者と制作した季節感ある装飾物を飾っている。</li> <li>・エアコン、加湿器を使い、温湿度を調整している。時間を決めて1日3回は全室換気している。</li> <li>・テーブル、椅子、ソファを複数配置し、くつろげる場となっている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと皆様のおのの時間を楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や仏具等、思い出のある品をご家族様と相談しながらお持ちいただいている。その他ご家族様とのお写真やぬいぐるみ等をおいている方もいる。ご本人がいごごちの良い空間となるように工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室には洗面台、エアコン、ベッド、タンス、カーテンや、安全に配慮して緩衝マットを設置している。</li> <li>・使い慣れた家具や馴染みのぬいぐるみ、写真、テレビ、位牌を持ち込み、利用者・家族と相談して居心地よく過ごせるようにしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を皆様がしっかりと把握できるように入口にわかりやすく（顔写真や文字拡大）掲示をしている。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境に努めている。		

事業所名	グループホームみんなの家・川崎久地
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示をしている。日々の申し送り時に唱和する事により、常に意識付け、実践へ繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類相当から5類に変わり、少しずつ地域の方々との交流も再開している。12月16日には、ボランティアの方をお呼びしてクリスマスコンサートを開催した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な近隣散歩時、地域の方々とはすれ違う事が多いのだが、まずは「挨拶」を必ず実践。そこから話を広げる努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの扱いが5類に変化後、2類時には書面の報告であったが、事業所での実施が復活した。 ご家族様、地域の方皆様（町内会長、老人会会長、婦人部、地域包括支援センター職員）をお呼びして近況報告、情報交換をし、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所職員や地域包括職員とは、介護保険や生活保護、空室案内等に関する事で連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。又、定期的（年2回）開催されている地域の見守り活動連絡会にも参加させていただき活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事を前提としている。身体拘束廃止委員会を設置し、話し合いや事例検討等を行う中で理解を深めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、話し合い、勉強会を行う他、勤務に入る前にも「虐待ゼロへの行動指針」を昭和して意識づけを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で開催されるセミナーの掲示、研修会等学べる場や参加できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ十分な説明を行い、理解、納得していただいた上で契約をしている。又、契約時以外でも随時質問を受付、安心して理解していただける様努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では積極的に意見や要望を仰っていただけるように対応をしている。又、その他日常での電話連絡時に意見やご希望があれば随時お伺いし、反映させ続けている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個別に面談をする機会を設けている。その他にも連絡帳を用いて意見ができる環境を作り、反映をさせている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を実施している。個々の頑張りを平等に評価する事で、それぞれがやる気や向上心を持って働く事が出来る環境整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のフォローアップ研修等各自に合わせた研修機会を有している。働きながらトレーニング、スキルアップ出来る環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ対応が長く続いたため、同業者と直接交流の場を作るのは難しい現状であった。法人内同業隣接事業所と交流する機会はあり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族の話の話を聞いている。その他連絡時に積極的にコミュニケーションをとる中で、相談しやすい環境づくりを目指し、継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な時間を設け、ご家族様のお話を傾聴している。その他訪問時や電話連絡時、積極的にコミュニケーションを取る中で相談しやすい環境づくりを目指し、継続をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を念入りに行う事を前提とし、入居後も必要に応じて適宜カンファレンスを行う事で情報共有、「その時」必要としている支援へと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、出来る事は行っていただき、終了後は感謝の気持ちをお伝えする事により相互に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発送している一言通信、その他訪問時や電話連絡があった時に報告・連絡・相談を行い、共にご家族様を支えていく関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴やご本人様との会話の中ででたワードを下に、話題提供、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体感を持てるようなレクリエーションを実施している。支え合いの関係を築けるよう、職員が都度橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて適宜フォロー等、真摯な対応を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや会話、コミュニケーションから希望や意向を汲み取り都度にカンファレンスを実施。又ご家族様の思いも聞き取りを行っている。思いに添えるようなケアの実現を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時にご本人の出身地等、過去の生活歴を把握している。又、日々の生活の中でも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮する努力を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタル測定。食事量、水分量、排泄の状況を表にまとめ、健康状態を把握している。又、利用者様個々の生活状況や言動、行動等を日々生活記録に記載し、連絡ノートや申し送りで共有する事で把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成においては、ご本人、ご家族のご意向を反映させた上で、必要に応じて関係者（医師等）の意見も取り入れ、現状にそくした介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有のため、申し送りファイルや連絡帳を活用している。ケアがうまくいった時の方法やケアに関する情報は、申し送りやフロア会議等で共有し、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度に、個々が必要としているサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが5類となり、少しずつ近隣の豊かな地域資源への訪問など、活動を再開している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期訪問診療において主治医（かかりつけ医）とは顔馴染みの関係である。かかりつけ医においては夜間救急ダイヤルにて急変対応ができる支援体制である。外部通院をされる方へは主治医からの情報提供や通院へのサポートがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携看護師連絡記録」が、介護職、看護職が相互に報告・連絡・相談しあうツールとなっている。又、看護師訪問時は口頭でも詳細を伝え、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は基本、早期退院を目標とし、病院関係者と密に連絡を取り合い関係作りに努めている。又、退院前にはご家族・主治医・施設関係者とでムンテラの間を設けている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期についての対応の説明を行っている。又、必要と考えられる段階で関係機関の協力を得ながら、ご家族を含めた話し合いの場を持ち、チーム支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、緊急時の対応方法を設置している。 職員が迅速に対応できるように努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定した避難訓練や消防訓練を定期的に設け、実施訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせたお声掛けを行っている。 不定期にフロア会議内等で言葉かけ、接遇に対する話し合いを行い、個々の人格の尊重やプライバシーを大切にされた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話やこにゅにケーションの中からご本人の思いや希望などを汲み取り自己決定がされるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する皆様の状況を把握しながら、臨機応変・柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やヘアカラー、セラピー等その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力や得意な事を把握した上で食事の盛り付けや配膳・テーブル拭きや片付け等のお手伝いをしていただいている。 又、毎月の出前昼食にて「食」を楽しむ機会も設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態（常食・一口大・刻み・ミキサー）にして対応をしている。それにより栄養状態の維持・改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの促し、声掛け、介助を行っている。その他週に一度の訪問歯科診療（歯科医師・歯科衛生士来訪）による支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を使用し、利用者様それぞれに合わせた自尊心を傷つけないお声掛け、トイレ誘導等排泄支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取の促し、水分量の確保。毎日の体操（運動）への参加。その他必要に応じて乳酸菌飲料での排便促進や内服薬（下剤）使用等、個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望や意向をお伺いし、それを配慮した上で入浴支援を行っている。  入浴日の固定、時間の固定、無理強いはしない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様のその時の状況を把握した上で、個々にあった休息をとっていただいている。自室でくつろいでいただく時間を確保したり、除圧が必要な方には臥床し除圧する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬処方時に薬剤師より説明を受け、薬への理解を深めている。また、お薬ファイルを作成し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの皆様の好みや性格、得意なことにあわせて役割や楽しみを支援している。（散歩、歌、作品作り、読書等）		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類となり、少しずつ戸外に出掛けられるような支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として利用者様の金銭管理は「立替金」として事業所管理で行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。又、手紙のポスト投函支援も行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に行事時等に撮影した写真を掲示する事により、いつでも思い出を振りかえられるようにしている。その他、季節に合わせた装飾や照明の調整、温度、湿度管理、清掃、換気を適宜実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（各階フロア）にはソファや大型テレビ、マガジンラック等を設置している。個人でくつろがれたり、数人で談笑されたりと皆様のおのの時間を楽しまれている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や仏具等、思い出のある品をご家族様と相談しながらお持ちいただいている。その他ご家族様とお写真やぬいぐるみ等をおいている方もいる。ご本人がいごごちの良い空間となるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を皆様がしっかりと把握できるよう入口にわかりやすく（顔写真や文字拡大）掲示をしている。又、バリアフリー、動線の確保により安全な生活環境に努めている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム  
みんなの家・川崎久地

作成日 令和6年1月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・地域との交流が少しずつ再開してきている。が以前（コロナ前）ほどの交流には至っていない。	少しずつ地域の輪を広げ、地域の皆様に認知されているグループホームを目指す。	①地域の行事にはできる限り積極的に参加をする。 ②隣接グループホームとの合同行事を企画し、できる限り地域の皆様をおよびする。	10か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。